巻頭言

有難うございました

津　和　秀　夫*

私が田舎の高等学校を出て，阪大工学部の門をくぐったのは昭和16年の春でした．それから42年間，工学部から一歩も出なかった者として，今春定年を迎えることとなりました．振り返れば感無量というのが，ただ今の実感です．

入学の年の12月８日は大東亜戦争の開戦です．兵器生産工場の技師になろうとして，精密工学科に入った私にとって，開戦は身の引き締まるような感動でした．勉強に力が入ったのは勿論です．そして卒業研究は兵器生産と関係の深い精密工作の研究室でさせて頂きました．

卒業も迫った或る日，夕食のとき父が言いました．「大学院特別研究生という制度ができる．お前はそれに行って学者にならんか」．余りにも藪から棒のことで，私は戸惑いました．「今晩ゆっくり考えます」と二階に上りました．何ほど考えても未来を予測することはできません．「オヤジに任せる」と，いとも簡単に人生の方針を決めて，寝てしまいました．

それから敗戦と戦後の疲弊と混乱です．日本は農業国になる，とか工学部は潰される，という噂も飛びました．私は工学部以外に生きる術を知りません．「潰れるまで，しがみ付こう」と心に決めました．

それが潰れるどころか，戦前の四倍にも拡張して，吹田の広い敷地に偉容を誇るようになってしまいました．学者になってよかった，とつくづく思います．そして亡き父の卓見に謝します．

同時にまた，大恩を受けた阪大，工学部，精密工学教室に感謝します．恩師，先輩，友人，後輩に恵まれた身の幸運をしみじみ想っています．特に生産技術振興協会は私を暖かく包んで下さいました．「生産と技術」の編集をしたことは，私の生涯を通じての楽しい思い出です．

いま私は阪大を去るに当って，「有難うございました」と，感謝の気持で一ぱいです．そして生産技術振興協会と阪大工学部のますますのご隆昌を祈って止みません．私は清々しい気持で第二の人生の道を歩きます．

*津和秀夫（Hideo TSUWA），阪大工学部，工学部長，工博，精密加工